



特定非営利活動法人

RASA-Japanニュースレター

2017.3
Vol.24

RASAとともに17年目

理事 藤井忠子



『学校建設』 2000年に両親を看取って、その2年後次の理由でフィリピンの学校建設活動に参加しました。現地から帰った友人に感想を聞くと「とにかく行ってきなさい、行けば理由はわかる。」との答えでした。私は既に3年間フィピンに仕事で滞在中の夫を12回訪問していて、いく度毎に、大都會の光の部分とハッとするくらい極貧の部分が混在していたことが脳裏の中にありました。実態を知ることができるし、身体を動かすのが好きだから、私でも学校を作るという作業をしてみたいと思ったからです。ホームステイ先で寝食を共にする体験によって「絶対的貧困」の実態をこの目で見ました。この国の大部分が貧しい人達である——本当のフィピンを体験したのです。家に物が無いのです。安定した職はわずかで、不安定な収入、職がなく自前で考えて働いて収入を得るその日暮し、このように恵まれない環境でも人々が笑顔で他人のことも自分のことのように真剣に助け合う。笑顔を絶やさず。他人への思いやりと家族の強い絆が日々人々の生活を支えている。大事なことを、この目で見たのです。「人が生きる」こと、「幸せ」について体験から考えさせられました。人の繋がりが貧しさを支え、共に生きている現実。日本では絶体できない体験を「若い時にこそ！若者にこそ！」と思って帰国。それを発展させ、継続するために、活動をコーディネートした現地のNGOに要求の手紙を出しました。この滞在中に起きた水や衛生の問題を改善することが日本の整った環境で育った学生が長い滞在中安全に過ごすためには不可欠である。ホストに指導してほしいと。

一緒に働いたボランティアは初めあまりの変化の大きさに意欲を見せなかったのですが、暑さの中でも次第に順応し、働く中で日々変化を見せ、建物ができていくのを見に来る子供達の

顔を見て、他人のために働く喜びを自ら見出し生きがいを感じ、帰国してからは生き方を見直す機会を得たと聞きました。

ホストの経済格差での待遇の違いがあっても誰一人文句を言わない。「あえて多少なりとも悪い状況を与えて、それを乗り越えていく能力をつける。」人間どんな環境に置かれても生きられること、これを学ぶことは、人の教育には大事なことを考えています。置かれた環境で、学生が学んでいくのです。一般的に今の若者には自分のお金で、海外に行けるのに行かない。社会保障やインフラの整った日本から飛び出して、観光旅行のほかは海外に行こうとしない。時流に流されているからますます物事の深い判断ができる学生が少なくなってきたように思われます。学生で読書時間の皆無も多いというデータもあります。広い視野に立って身近な事だけでなく、他者にも関心を持ち思いを馳せて欲しいと願っています。

『栄養障害児救済』「今夜食べる物が無い」それが今実施している給食児童の家庭に多く、従って彼らの体格位BMIも13.5ととても貧弱な体です。貧困のため成長期に体を造ることができず、義務教育すら卒業できないという「負の連鎖の原因」になっています。読み書き計算の基礎学力がないとまともな職に就けず、その日暮らしを余儀なくされているのです。フィリピンの政府は教育制度を優先し学校現場での実態改善には経済状況からなかなか進まず、RASAは学校に行けば給食が食べられる→不登校が改善→授業の集中力がつく→学力向上し留年せず、卒業できる。確実に成果が出ている実績から少しでも改善に寄与したく支援者の協力を得て、活動しております。日本でなくなぜ外国に支援するの？といわれるとありますが、世界では貧富の差が拡大するばかりで、市場原理だから仕方がないではなく、できることから、未来に希望を置いて、フィピンの子ども達が貧困の連鎖を免れるように、活動を進めています。

※BMI:体格位 体重kg/身長m² フィピンでは標準が
15. 日本では、18. (成長期)
絶対的貧困...1日1.25ドル以下

認定NPO法人に名古屋市から承認されました。(2月16日付け) RASAへ寄付していただくと、寄付した法人の法人税、個人の方は所得税、住民税、相続税が控除減額される特典があります。寄付者への特典付与により、税制上NPO活動を助成する制度です。(内閣府の統計によると、全国NPO法人数51,260、うち認定NPO法人数1,103。愛知県のNPO総数972、うち認定NPO法人数は16。(2017.2.現在))

フィリピンでの学校建設活動

今年の学校建設活動は、予定地のカブヤオ市の都合で、出発直前に3月へ先送りとなり、その関係で建設前段階の地盤整地作業となりました。

派遣期間 2月9日から2月26日まで18日間

参加学生 21名

派遣地 ラグナ州のママティッド・グロッド、ナショナルハイスクール

今年の活動の特徴は、建設活動中の2日間ハイスクール18クラス全てで日本語教室を開催したことです。昨年までは小学生が相手で、言葉遊びでしたが、50音図などを表示して、生徒が日本語を学ぶことに大変興味を示しました。

教壇に立つ全学生を3班に分け、共通の資料教材を作り、みんなでリハサールをして話し合い、教える内容を統一して臨みました。

(地盤整備作業の様子)



(真剣に教え、熱心に学ぶ)



(海水浴)



(記念の手形を残しました)



(フェアウェル・パーティ)



(ホスト・ファミリーとのスナップ)



名古屋NGOセンターの助成金の支給団体に選ばれました

サウスビルワン I 小学校の栄養失調症で苦しむ子供たちの命をより多く救いたいという思いから、RASAは2012年から給食活動を年間を通じて行っています。1,500名いる栄養失調症の子供たちのうち、学校側が選別した100名の子供を対象としています。満足な食事が一日一食も食べられない栄養失調症状の重い子供たちです。現状と活動成果、活動方針、を審査員に理事長夫妻が熱く訴え、2月4日の公開審査で支給団体に選んでいただきました。

活動報告

2016年11月～2017年3月

11月 9日 ボランティア募集活動(南山大学 ロゴスセンター)

14日 ニュースレター編集会議

15日 ボランティア募集締め切り (21名参加)

21～24日 理事長フィリピン出張 (ボランティア活動
現地調査、現地ホテル予約移動手段の確認
など)

12月17日 '17年ボランティア第1回研修会(ロゴスセンター)
事前ガイダンス、現地状況説明

16～17日 チャリティバザー (ロゴスセンター) (写真1)
'16年ボランティア学生、及びスタッフが協力
ブラジル人会の支援。フルーツバスケット、焼き肉他

1月10日～13日 理事長 フィリピン出張
諸手続き及び契約

14日 '17年ボランティア第2回研修会
出発準備の諸手続き、保険契約の確認

17日 フィリピン現地給食児童から
クリスマス会感謝の手紙、及び寄せ書き(写真2)

20日 ロゴスセンターチャリティバザーから
多額の寄付を受ける。

23日 RADIO SAN-Q(瀬戸FM放送)理事長夫妻出演
30分生放送 (写真3)

2月 4日 '17ボランティア第3回研修会
活動グループ分け、及びリーダー決定

9～26日 ボランティア活動
(フィリピン・ラグナ州・カブヤオ市)
手を貸す運動Ⅱの3名の方が、サウスビル給食
活動の現地視察(15日)

16日 認定NPO法人(平成28年8月29日申請)の承認を
名古屋市長より受けました

26日 休眠預金活用制度シンポジウムに出席

3月 4日 東海地域NGO活動助成金申請の最終審査でプレゼンテーション
「栄養失調の学童への給食の提供」

11日 '17年ボランティア活動帰国反省会 (ロゴスセンター)
◎RASA学生スタッフの引継ぎ(2016年参加者から2017年参加者へ)
◎ボランティア活動記録DVD及び文集作成打ち合わせ

31日 ニュースレター24号発送 (毎月の法人定例会を省略しました)



(写真1) チャリティバザー



(写真2) フィリピンの子供たち
から感謝の手紙



(写真3) 瀬戸FM放送 生出演

活動予定

2016年4月～8月

4月中旬 2018年ボランティア活動募集開始 (チラシ・ポスター配布)

下旬 フィリピン出張 サウスビル給食実施状況の点検 及び次年度計画打合せ
夏の給食 Study tour 打合せ

5月13日 Rasa-Japan 通常総会

中旬 フィリピン出張 2018年2月学校建設の調査、打合せ、建設業者と打合せ、相見積
Feeding Study tour の募集開始

下旬 フィリピンフェスティバルで活動内容発表

7月 中旬 愛知サマーセミナー参加予定

9月 上旬 Feeding Study tour 実施予定

手を貸す運動Ⅱ 代表佐藤氏がフィリピンへ

あたかも2月15日のカブヤオ市ママティッド・ハイスクールで、学校建設活動のさなか、サウスビル1小学校の給食活動の現場視察のため佐藤代表以下三名の方が東京町田市からお越しになりました。

子供たちが、黙々とそしてにこやかに食事する光景にしばし三名の方々は目を細めてご覧になっておられました。この子供たちが将来どのような大人に成長し、成功するのか楽しみです。



ご寄付のお願い； RASA-Japanはフィリピンでの学校建設を継続しておりますが、ハイスクールの就学期間が2年延長され、ますます学校や教室不足の状態は深刻になっております。フィリピンの教育環境改善、自力でできる生活力をつける教育をささえたいと活動してきたRASAは、毎年建設費として、最低500万円を予算計上しています。

RASAはフィリピンにおける学校建設の有力な資金提供者です。増設要望が多く来る中、願いをかなえたいと奮闘しています。皆様の支援があってこそできる活動です。フィリピンの恵まれない教育環境の子どもたちに、なにとぞ力をお貸しください。

ゆうちょ銀行からお振込み

【振込口座】

ゆうちょ銀行 00890-4-31185

【振込名義】

特定非営利活動法人RASA-Japan

他の銀行からお振込み

【振込先銀行名】ゆうちょ銀行

【支店名】〇八九【口座種別】普通

【口座番号】31185

【受取人名】特定非営利活動法人

RASA-Japan

事務局メンバーは10人となりました。

新しく3人が加わりました。(写真左から)

柳生聖子氏 「よろしくおねがいします」

宮島恭子氏 「RASAの力となれるよう微力ですが、頑張ります」

小林 宏 氏 「皆さんとともに、喜びの中で過ごせる時間がうれしいです」



編集後記

今回のニュースレターで二つの朗報をお伝えすることを喜んでおります。一つ目は、2月9日から26日迄フィリピンで、大学生21名スタッフ4名でボランティア活動をし、無事帰国してきたことです。今回は、現地の学校建設の認可の遅れで当初予定していたボランティア活動はできませんでしたが、建設予定地のがれきの撤去、樹木の伐採等の整地をして感謝されました。二つ目には、現在のNPO法人から、税制上の優遇措置が得られる認定NPO法人にする為、昨年来理事長を中心作業を進め、所轄官庁に申請、審査を受けてきました。その結果、去る2月16日に名古屋市よりRASA-Japanを認定NPOにするとの認可を得ました。今後も寄付金控除等が受けられるRASA-Japanへのご支援をお願いします。



特定非営利活動法人

RASA-Japan

理事長 藤井 典夫

〒468-0014

名古屋市天白区中平2-2627

Tel/Fax 052-803-1649

URL <http://rasa-japan.com>